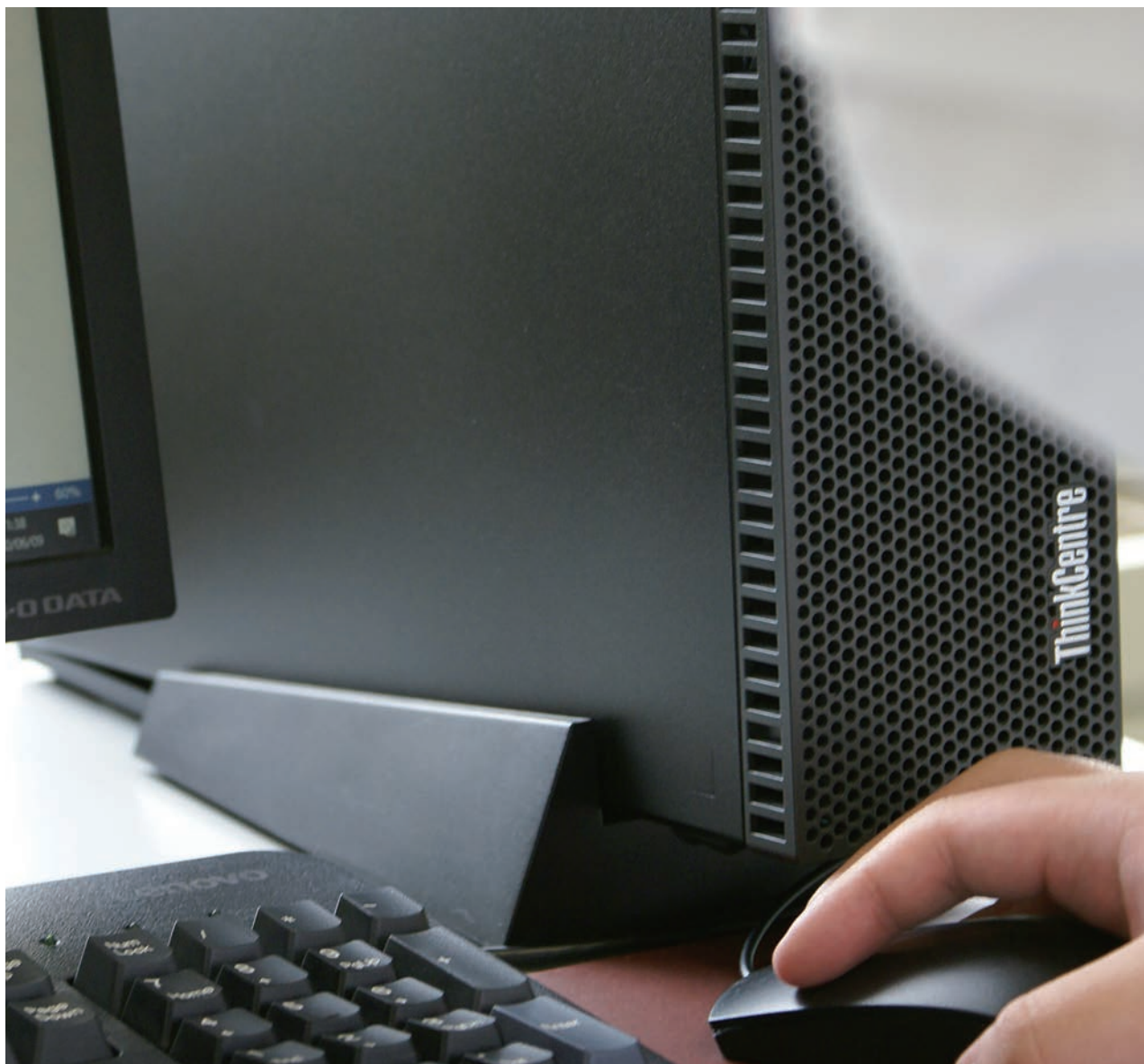


IDDNewsletter

..... 9
2020 September



特集

デザインにおける「結界」

～情報を整理するというデザインの本質を見いだすために～

デザインは造形活動という要素に包含される概念ではありますが、色や形を組み合わせる事自体を指しません。情報デザイン科「学科だより」では、これまでもそのことの重要性について、日々の教育活動の具体を組み込みつつ、取り上げさせていただきました。

今回は、日常の公共空間における「空間の区切り方～世界の拡張の仕方～」を通して見えるデザイン上の「結界」から、「情報の整理」というデザインの本質的な要素について考えてみます。

デザインにおける「結界」

～情報を整理するというデザインの本質を見いだすために～

デザインは造形活動という要素に包含される概念ではありますが、色や形を組み合わせる事自体を指しません。

情報デザイン科「学科だより」では、これまでそのことの重要性について、日々の教育活動の具体を組み込みつつ、取り上げさせていただきました。今回は、日常の公共空間における「空間の区切り方～世界の拡張の仕方～」を通して見えるデザイン上の「結界」から、「情報の整理」というデザインの本質的な要素について考えてみます。

「デザインとは、情報を整理することである」

これまで発行してきた学科だよりの中でも、このことについては、情報デザイン科の方針として最も重要な要素として、繰り返し取り上げてきたところです。

言語的な要素で切り分けられた世界の断片を、断片同士を比較しながら、観点を決めていく。そして、その観点に応じて要素を分類していく。そうしてできあがる階層性が、整理された情報となり、デザインのための下ごしらえとも言える状態になるわけです。

例えば、人間の子どもの名前を初めて覚える時、それはものと1対1対応するように名付けるのではなく、カテゴリー分けをしているということは知られるところではありますが、結局、私達が世界を認識するということは、あるものとあるものの間

にある差異をどれだけ見つけられるかにかかっています。

デザイン活動も「情報を整理する」振る舞いである以上、オブジェクト間を比較する力は相当に求められてきます。要素間の比較のためには、ある全体に内包される属性の潮目を見つけ、そこに表面を見出さなければなりません。そして、そこから、ものは拡張され、世界は広がっていきます。

そして、この表面にあたるものは、なにも手触りのあるものであるとは限りません。同じ機能や属性が共有される空間は、それ以外の空間との間に表面を持つと考えることができます。それが「結界」と呼ばれるものです。

例えば図1と図2は、JR北海道の駅コンコース内、図3と図4はJR東日本の駅コンコース内の写真です。駅という公共空間は、初めてその場所を訪れる旅行者も多いですから、サイン類



図1 JR北海道の駅コンコース



図2 JR北海道の駅コンコース その2



図3 JR東日本の駅コンコース



図4 JR東日本の駅コンコース その2

の案内表示は特に充実しています。

このサイン類の配置は、それぞれのデザインポリシーが端的に見えてくるものです。

まず図1と図2のJR北海道のサインについてですが、これは改札のある地上階から2階のホーム階に向かう際、ホームの方向を指示することを重視しています。ですから、階段入口に対して90度の方向に取り付けられています。

もちろん、これはこれで必要な情報ではあるのですが、ここで決定的に足りないのは、「機能と属性が異なる空間に変わるのどこからか」がわからないことです。つまり、どこからが「コンコース」という意味を持つ空間で、どこからが「ホーム」という意味を持つ空間で、どこからが「ホームとコンコースを繋ぐ渡し」なのが見えないということです。

いくら方向を案内されたとしても、目的地とする空間がどこなのが見えなければ、永遠にたどり着くことはできません。加えて、ある同じ機能を持った空間を同じ形や色でまとめるということは、デザインの中核の機能であり、まさに「情報を整理する」ことに繋がります。

整理されない情報の中、方向だけ指示されるのは、まったくもって「大きなお世話」なのであり、あたかも言葉が通じづらいうからといって、簡単に子どもの手をとってしまう下手な教師の有り様と同じようなものだろうと、聾学校の教師である私は、話をだぶらせてしまうわけですが。

図3と図4のJR東日本の駅のデザインは、図1や図2と同様の構造ではありますが、階段入口上部に階段と平行になるようにサインが取り付けられています。このサインは、情報量よりも長めの領域が確保されていますから、その底面からコンコース床面へ垂直に面が意識されます。この不可視な意識上の面が、デザインとしての結界であり、空間の持つ機能の違いを利用者に意識させるものになります。結果的に、「コンコース」「ホー

ムとコンコースを繋ぐ渡し」「ホーム」という異なる属性の空間が、デザインという目的的な活動により明示化されるわけです。

この結界は、例えば、グラフィックデザインのレイアウトにおいても非常に重要な役割を果たします。

階層化された情報を、版面という区切られた領域に割り付けていく時、目に見えない四角形の領域で区切り、その区切り毎にカテゴリーを割り当てて、要素を詰め込んでいくこと。それがレイアウトの基本的な考え方になるわけですが、このときに、文字や形が何もない余白に結界を見いだせるかどうかは、デザインという活動を進めていく上での生命線と言わなければならないことです。(図5)

日常の公共空間に見いだせる、ありとあらゆる結界。領域の転化の心地よさを感じるのか、はたまた、それを漫然と通り過ぎるかは、デザインの学習において大きな差となって現れてくるはずです。

IDDN

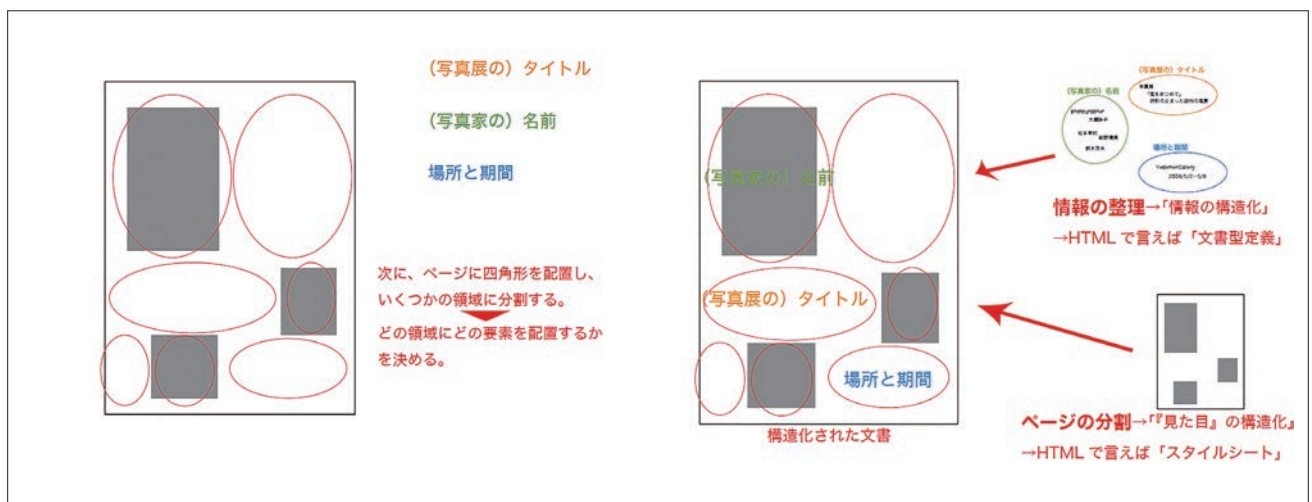


図5 グラフィックデザインにおける領域の区切り方

Contents

特集

デザインにおける「結界」

2-3

～情報を整理するというデザインの本質を見いだすために～

デザインは造形活動という要素に包含される概念ではありますが、色や形を組み合わせる事自体を指しません。
情報デザイン科「学科だより」では、これまでもそのことの重要性について、日々の教育活動の具体を組み込みつつ、取り上げさせていただきました。
今回は、日常の公共空間における「空間の区切り方～世界の拡張の仕方～」を通して見えるデザイン上の「結界」から、「情報の整理」というデザインの本質的な要素について考えてみます。

Welcome to Information Design Department!!

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」
をお読みいただきありがとうございます。

北海道も9月上旬は暑い日が続きましたが、中旬に入り、
すっかり秋、いや、この冷え込み方はそれをも通り過ぎる
かの勢いです。

4月、5月の臨時休校が、少しずつ遠くの出来事のように
感じます。これからも感染予防には気を抜かず取り組む
ことはもちろんのこと、新しい社会の標準に対応する柔軟
さが求められてくることになりそうです。

情報デザイン科ではデザインの専門的で実践的な知識と
技術を身に付けさせ、社会で活躍できる人材を育成するべ
く、今後もスタッフ一同、力を合わせて指導して参ります。



情報デザイン科学科だより

Information Design Department

IDDNewsletter

September 2020 9

IDDNewsletter

September 2020

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。